

技術論文誌「OMRON TECHNICS」の

発行再開にあたって



平素より、皆様には多大なご高配をいただき感謝申し上げます。

今回、オムロングループの技術論文誌「OMRON TECHNICS」の発行を再開し、皆様のお手元に届けられましたことをうれしく思います。

この「OMRON TECHNICS」の歴史を振り返ると、創刊は1961年、日本でオートメーション技術が進展して市場が拡大するとともに、機械による自動化・無人化が市民生活を便利に快適にしていく社会のありかたが見え始めてきた時期です。オムロンは、こうした時代の変化を「サイバネーション革命」と呼び、社会的課題を解決し、より良い社会を実現していくための挑戦を開始しました。当時の資本金の4倍もの資金を投入して、京都府長岡町（現長岡京市）に中央研究所を設立したのは、「OMRON TECHNICS」創刊の前年の1960年です。その後、自動券売機、電子自動信号機、自動改札機、現金自動支払機、卓上計算機、健康機器などを世に送り出し、社会的課題の解決を進めてきました。「ソーシャルニーズの創造」をめざす技術開発・研究開発は、現在でも我々オムロンの技術開発部門のDNAとして脈々と受け継がれています。

オムロンでは、2017年から新中期経営計画VG2.0を始動し、技術の進化を起点にイノベーションを起こし、事業を通じた社会的課題の解決に取り組んでおります。創業者 立石一真の企業哲学である「機械にできることは機械に任せ、人はより創造的な分野で活動を楽しむべきである」を目指し、具体的な近未来を描くことでソーシャルニーズを創造する技術開発に注力しています。

社会的課題を解決するイノベーションを起こしていくには、弊社のみでは難しく世界中のパートナー様とのオープンイノベーションが不可欠となってきています。それが「OMRON TECHNICS」の再開を決めた背景でもあります。

本号では、我々が注力する4つの事業領域の最新技術を中心にご紹介いたします。我々の技術を多くの読者の方々にご覧いただき、皆様と「ソーシャルニーズの創造」による社会的課題の解決につながるものとなれば幸いです。

オムロン株式会社
代表取締役 執行役員専務 CTO

宮田喜一郎